浜松日本語学院　教育実践報告会
「伝える・つながる・創る力」を育む日本語教育

教育実践報告

地域力を育む日本語教育

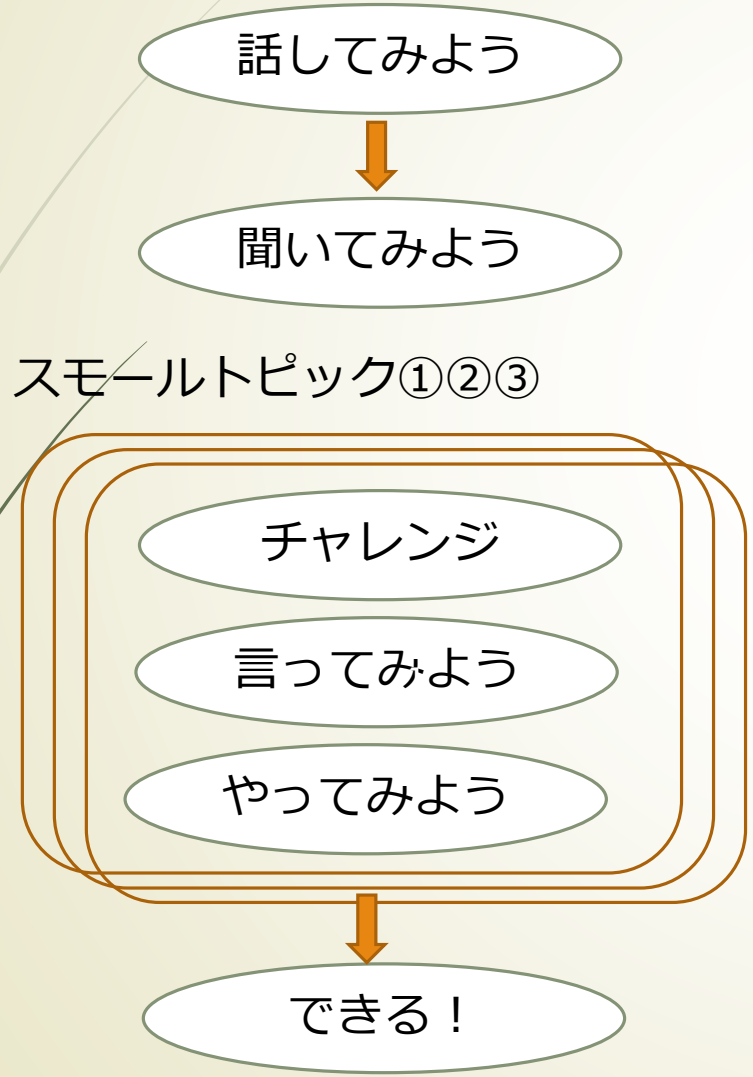
『できる日本語』を使って
～2年の歩み～

浜松日本語学院
松葉　優子

『できる日本語』シリーズとは

- 「自分のこと／自分の考えを**伝える力**」「伝え合う・語り合う日本語力」を身につけることを目的にした教科書です。日本語によるコミュニケーションの中でも**「対話力」に重きをおき**、人とつながる力を養います。
- 「現場で生まれ、現場で育てられた、**学習者と現場教師のための教科書**」
- 「学習者主体／接触場面研究／〈今、ここで〉の場の共有」の考え方をとおして「**人とつながる力を養成**すること」　『できる日本語』初級本冊ｐ2～3　一部抜粋

テキストの使い方



できる！

- 「～ができる」に向かってテキストの内容は進んでいく。

チャレンジ　状況を理解する⇒CDを聞き表現を理解する

言ってみよう　学習した表現を会話として練習

やってみよう　状況に合った表現を使って会話してみる

教師は
どんな視点で授業づくりをしていけばいいのか

（内省的実践家・自己教育力の育成）

- 前回　本校成瀬講師より報告

≪ポイント≫

テキストが変わってコンセプトは分かっているつもりだったが

「つもり」になっていて従来の教え方と変わっていなかった

学習者の活動を通して自らの授業を分析。

「何が足りないのか」

「どのような授業構成にすべきか」自ら気づいた。

「できる！」の活動で教師も学生も成長

教師：自己教育力の育成

≪以前は≫

文型を教えることが中心

試験のための授業

↓

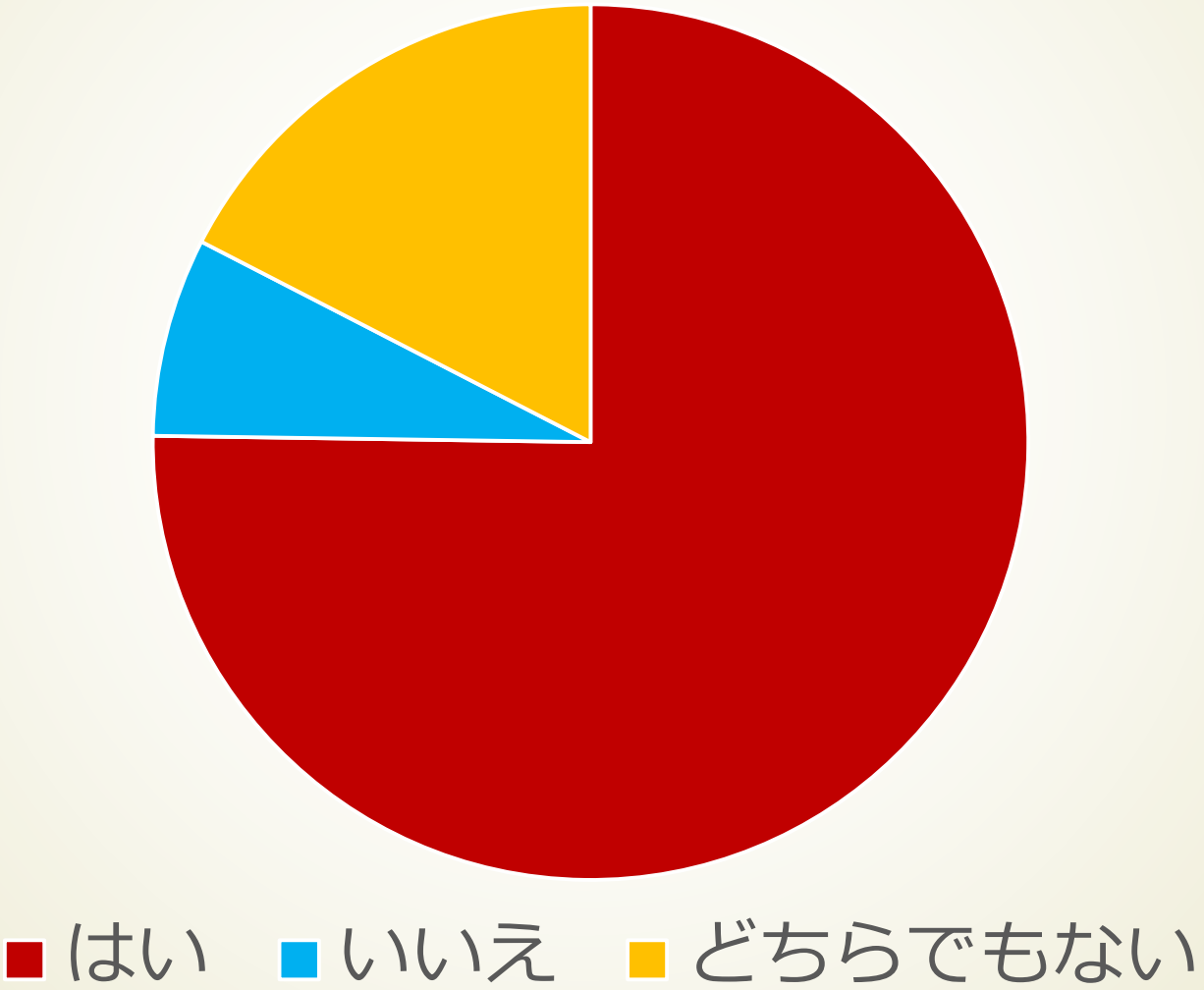
何のために日本語を教えるのだろうか

- **学生の成長**が分かることにより教師も教えることへのモチベーションアップに繋がっている
- 使っている場面での表現を知ることにより定着度が分かる

学生の成長

- テキストと同じような場面で適切な表現が出てくる
- 言いたいことを言おうとする
- 最初は教科書の表現をそのまま使っているのにだんだん**自分のことばに変化**している
- 学生はクラスメイトと日本語で話し合い意見を出し合う
- 日本語で話すことに抵抗を感じない　日本人と話そうと積極的である

学生アンケート結果
Q:できる日本語で勉強して良かったか



自分の考えや思いを伝える

- 何もできなかった学生たちが　**自分の言葉で表現できる**ようになる過程をみることができる
- 彼らはそれぞれ自分の考えや思いを持っている。それを日本語で伝えるようになる

伝える場・語り合う場を作る必要性

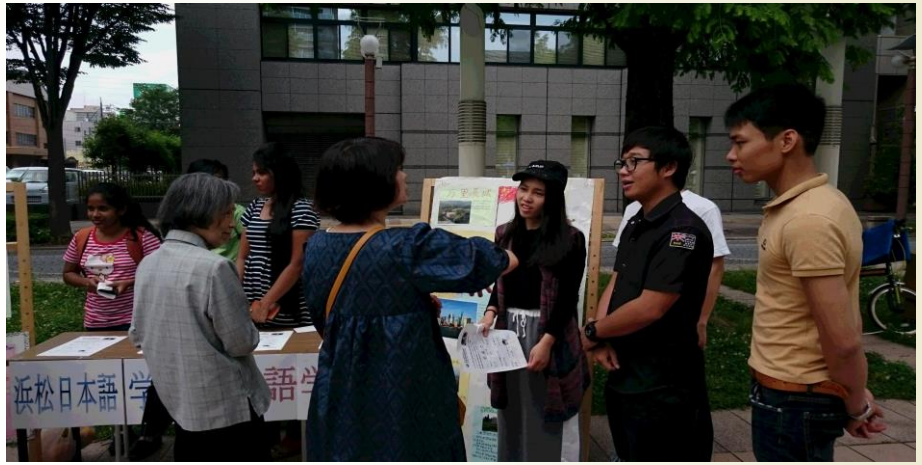
学校間交流：グループ校の良さを活かし専門学校、
中・高等学校との交流

学内での活動：教室活動　サポーターバンクの方との交流
ポスター発表会　弁論大会他

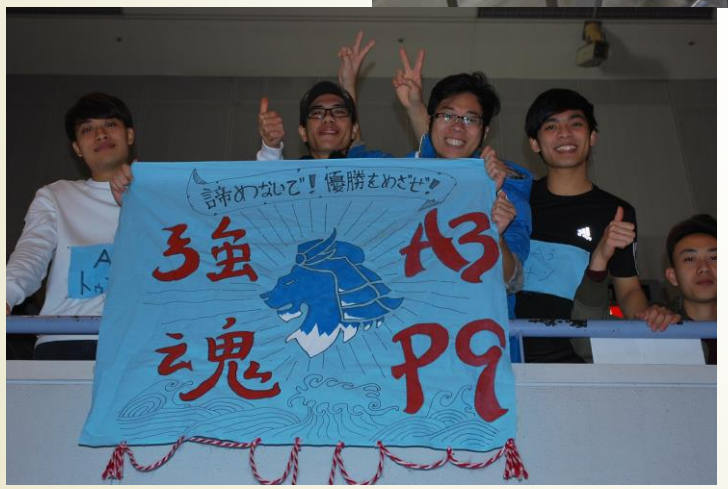
学外での活動：**「ふれあいデー」「アグリフォーラム」**

できる！の活動を通して外へとつなげる

～地域での活動「ふれあいデー」～



話すことへの自信につながる



発信する！
国のことを日本人に知ってもらいたい
～ラジオ番組で国の行事を紹介～

農園体験をする

- 浜松市内の農園に訪問
- どんな農園？

  お茶・柿・みかん・小松菜・トマト・バラ・うなぎいも・いちご
- 何をする？

  茶歌舞伎体験（鎌倉時代の貴族の遊び）

  柿・みかん・トマトの収穫を体験する

  工場見学や農業についての説明を受ける

New浜名湖アグリフォーラムに参加
～自分たちが感じたことを話す～

- 農園経営者と学生との報告

  学生が体験し感じたことを日本語で発表

  - いちごがびっくりするほどおいしかった
  - 自分の国の柿と比べて値段が高いがすごく甘くておいしかった
  - 見たこともない色のバラ
  - トマトに顔が書いてあるのを初めて見た
  - 茶歌舞伎を体験してお茶にはいろいろな種類があることが分かった

学生にとって
初めて日本の
農業にふれる

茶歌舞伎体験

外国から日本語を学びに来た留学生と交流して
～農園経営者からの声～

- 留学生を通して「農業」と「世界」が身近に感じた
- 海外のイメージが大きく変わった　非常に身近に感じるようになった
- 留学生の日本語能力が高いのに驚いた　日本語でこんなにコミュニケーションが取れるとは思わなかった
- フォーラムの発表を聞いてくれた方から学生との交流や雰囲気がとてもよかったとお褒めの言葉を頂いた
- 生産者として柿の収穫をとても楽しそうにしてくれたことをうれしく思った
- 発表の準備の際には日本語の文章をしっかりと考えてくれ、練習にも積極的に参加してくれたことをうれしく思った

留学生を身近に感じる
外国人へのイメージが変わる

交流を通して

- 留学生との交流を通して地域の方々の異文化への理解に繋がっている
- 留学生にとっては様々な分野で「日本を知る」良い機会となっている

まとめ

伝える・つながる・創る

伝える・・・・1年目は伝えるための日本語力向上のためにどのような授業をすべきか

つながる・・・・1年目に設立したサポーターバンクの方々との交流から2年目は学生が学外に出かけて行き地域の方々との交流をする

創る・・・・2年目の今年度は卒業制作として各クラスで動画を制作。
テーマ選びから内容決定、動画撮影など制作する過程において仲間と議論しながら行った。

ご清聴ありがとうございました

できる日本語
で勉強した
第1期生141名